

2月19日(金曜日)

ドル/円

連銀総裁発言に注目

18日(木)の主な推移

ダウ平均株価

10392.90ドル
(+83.66ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

3.8050%
(+0.0667%)

NY原油先物

79.06ドル
(+1.73ドル)

チャート: 30分足 18日(木)朝7時 ~ 19日(金)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所:外為どっとコム

- ① 22時30分に発表された米新規失業保険申請件数は47万3000件と、市場予想(43万8000件)よりも弱い結果になったことで、ドル/円ではドル安・円高が進み、一時90.56円の安値を付けた。
- ② 日本時間19日0時に発表された米フィラデルフィア連銀景況指数が17.6と、市場予想(17.0)よりも強い結果になったことでドル買いが進んだほか、米財務省が発表した来週の国債入札予定を受けて国債の需給悪化懸念から米長期金利が上昇したことを背景に、ドル/円は91.47円まで上昇した。
- ③ 日本時間19日6時30分頃、米連邦準備制度理事会(FRB)が公定歩合を0.25%引き上げて0.75%にすると発表した。これを受けてドルは急上昇。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 91.30-92.80円

本日は早朝に引き上げられた米公定歩合をテーマに、ドルがどこまで上値を伸ばすかが焦点となる。手掛かり材料としては、下記の経済指標の他、本日は日本時間10時からロックハート・アトランタ連銀総裁が、10時30分からブラード・セントルイス連銀総裁、22時からダドリー・NY連銀総裁がそれぞれ講演を行う。これら連銀総裁の講演内容から、今回の公定歩合引き上げと将来の金融引き締めについて読み取ろうとする市場関係者の動きが本日の鍵を握る公算だ。近い将来のさらなる金融引き締めに積極的な姿勢が見られればドル高、「しばらく引き締めが厳しくなることはない」との見方が強まればドル売りで反応するとみる。

日足チャートを見ると、本日時点で200日移動平均線が92.27円にあり、これが上値抵抗線として機能するとみられる。また、年度末を見定めた本邦輸出企業による円買い・ドル売りや、週末を控えてポジション整理の動きが出やすいことも、ドル/円の上値を圧迫する要因になると考えられる。ただし、ここを突破すると上昇に拍車がかかり、節目の93.00円を試す展開となろう。200日線付近での動きには注意したい。

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
2/19(金)	14:00		(日) 2月金融経済月報・基本的見解	—	—
	22:30	○	(米) 1月消費者物価指数 [前月比]	+0.1%	+0.3%
	22:30	○	(米) 1月消費者物価指数 [コア:前月比]	+0.1%	+0.1%

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com